中学基礎がため100%

できた! 中1国語

読解

別冊

解答と解説

・難しい問題には解説がついています。よく読みましょう。
・例は、自分で言葉を考えて書く問題の解答例です。
　同じような意味であれば、解答と全く同じ答えでなくても正解です。
・別解は、(　)の中に示してあります。(　)の中の答えでも正解です。

KUMON

➡ていねいに引っぱってください。別冊解答になります。

一章 説明文 1 指示語 基本問題①

P.4

確認

★ 赤いさいふ

1
(1) 花びん　花
(2) 贈り物
(3) 読書感想文
(4) 去年買ったグローブ

P.5

2
1
(1) 遊園地
(2) 公園
(3) 多くの文物
(4) 小さな空き地
(5) 家族でスキーに行った

2
(1) 伊豆の島
(2) 赤い服を着た男の子
(3) おじさん　京都

解説　このように、指示語が前ではなくあとの言葉を指し示すこともあるので、注意しよう。

(4) 駅
(5) 雪をかぶった山
(6) フランス

一章 説明文 1 指示語 基本問題②

P.6

1
1
(1) 公園の掃除を毎朝している
(2) 学校のすぐそば　小さな沼
(3) 青く輝く宝石

2
(1) 紫色のつり舟のような花
(2) 今度の試験で六十点以下の人は再試験をする
(3) とてもすてきなスポーツマンタイプの人

P.7

2
1
(1) ガソリンで走る自動車が姿を消す
(2) 毎日合唱コンクールの練習
(3) やる気がないのなら辞めてしまえ

解説　「ああいうこと」は言った内容を指している。

2
(1) キツネやタヌキやシカ
(2) 一組が優勝
(3) (前者)　英語を学びたいという人
(後者)　中国語を学びたいという人

一章 説明文 1 指示語 基本問題③

P.8

1
1 鉱物
2 広く一般の人たちでも手に入るような器も作る
3 東京都東久留米市自由学園における鳥類の調査記録
4 微生物　黒い湿った土

P.9

2
1 体重の約四〇パーセントを占める
2 動物の生息地
3 山梨県の西湖で捕れたという黒いマス

解説　「この黒いマス」とあるので、「黒いマス」について書かれたところを前の部分から探す。答えを「この黒いマス」にあてはめて、文意が通るか確かめよう。

❹ ハエ　蜜を求めて移動

一章 説明文 ❶ 指示語　標準問題

P.10

1

(1) 石油　石炭　天然ガス（順不同）

(2) 昔の生き物～してできた

(3) 化石燃料

(4) ウ

解説　ほかの例として「森林資源の無計画な利用」があげられていることから考えよう。

P.11

2

(1) 説明をしたり、意見や考えを述べたり、いろいろな場で発言した

（「説明をしたり、意見や考えを述べたり、」の部分は入れなくても正解。）

(2) イ

解説　あとの「話し方が速すぎるか、遅すぎるか」の結果として起こることが、「これ」の内容に含まれる。

(3) 話は、速さ

(4) いちばん理解しやすい速さ

(5) 例えば、あ

一章 説明文 ❷ 接続語　基本問題①

P.12

確認

★

(1) 風邪をひいた

(2) 元気だ

P.13

1

① イ
② ア
③ ア
④ イ

解説　「道路情報」と同じように伝えられるもので、別の「情報」なので、「天気予報」が適切。

2

① イ
② ア
③ ウ
④ イ

一章 説明文 ❷ 接続語　基本問題②

P.14

1

① ちょっと立ち止まって　見方
② 年かさ　聞き取れない

P.15

2

① (1) 人類　地球全体の資産
(2) ウ

② (1) 呼吸　排せつ
(2) イ

一章 説明文 ❷ 接続語　基本問題③

P.16

1

① ア
② イ

2

① イ

P.17

② ア

③ ウ

解説 前の「見渡すかぎりクロマツの針葉樹林」と、あとの「襟裳砂漠」は対照的な景観なので、逆接の接続語が入る。

④ ウ

3 A エ B ア C ウ

一章 説明文 ② 接続語 標準問題

P.18

1 (1) ウ (2) イ (3) ① 慣れ ② イ

P.19

2 (1) A ウ B イ

(2) 大凶作 田沢湖 食料の増産

(3) Ⅱ

解説 〔 〕の中の文は、逆接の働きの「しかし」で始まっており、玉川の水は田沢湖に引き入れられたという内容なので、それとは食い違う〝酸性の（玉川の）水は田沢湖の生物に打撃を与える〟という内容のⅡの直後に入れるのが適切。

一章 説明文 ③ 内容の理解 基本問題①

P.20

確認 ★ A ア B イ

1 A 自然破壊 B 地球の回復能力

P.21

2 (1) 起承転結 緩急 強弱 ゆっくり 速く （「緩急」と「強弱」は順不同）

解説 「話の表情」の直前の「そのこと」とは、「人間の話には、……なるのが普通です。」までを指しているので、この部分に注目する。

(2) 表情

3 （腐植土） 水を吸ったスポンジ

（森林） 緑のダム

一章 説明文 ③ 内容の理解 基本問題②

P.22

1 イ

2 (1) 生息地の環境 習性や行動

解説 □の前後の言葉に着目する。

(2) アメリカ

P.23

3 (1) ① 港に続く狭い谷間 ② 平地の終わった山裾

(2) ウ

解説 □の前の「厳しい」に注目して同じようなこ

とが書かれている部分を探すと、漁村の説明の部分で、「厳しい自然」という言葉が見つかる。□の前でも、「厳しい自然」と戦いながら、協力し合って働く人々について説明されている。

4
(1) これまでの動物園の展示
(2) 生態的展示

一章 説明文 ❸ 内容の理解 標準問題

P.24

1
(1) 水分を補給する

解説 ――線①を含む段落の最後の文に注目する。水分をとらないまま激しい運動をすると、体調が悪くなり、命にもかかわるので、水分を補給する必要があるのである。

(2) ① ア ② やがて
(3) イ

解説 「常識」という言葉に注目して、最後の段落を読み取る。

P.25

2
(1) 二酸化炭素

解説 「副産物」とは、目的の物を作ろうとする過程で得られる別の産物のこと。

(2) ① かけぶとん ② 温室のガラス
(3) ① 太陽から来た熱 地球の温度

---

② 気候 氷河 海面

一章 説明文 ❹ 段落の要点と文章構成 基本問題①

P.26

確認 ★
(1) イ
(2) 習慣化すべき
(3) イ

解説 「『読書力』は日本の地力だからだ」に、理由や根拠を示す「から」という表現が使われていることに着目する。

P.27

1
(1段落) 障害のある人
(2段落) 目的

2
(1段落) 分解
(2段落) 脂肪

一章 説明文 ❹ 段落の要点と文章構成 基本問題②

P.28

1
(1段落) 腐植土
(2段落) 緑のダム
(3段落) 調整作用 変動

P.29

2
(1段落) ハナバチ
(2段落) 浅い場所
(3段落) 蜜をなめる 花の形

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題③

P.30 **1**
(1) 白い部分　器官
(2) ウ
(3) つまり、ダイコンの白い部分は、根と胚軸の二つの器官から成っているのです。

解説 1段落で問いかけている疑問にはっきり答えている文に注目する。

P.31 **2**
(1) イ
(2) 発想の転換
(3) ア

解説 1・2段落で、電子レンジの加熱を例にあげて、発想の転換（てんかん）について説明し、3段落で、筆者の考えをまとめている。

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 標準問題

P.32 **1**
(1) 修復記録の蓄積
(2) ア
(3) 絵　文字

P.33 **2**
(1) 流氷の面積
(2) ア
(3) イ
(4) （1　2）（3）（4）

解説 4段落では、流氷の減少の原因が人類にもあることをふまえ、流氷の減少についての筆者の考えをまとめている。

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨 基本問題①

P.34 確認 ★
(1) 流氷
(2) 減少
(3) 観察　地球

P.35 **1**
① この展示は
② 創造的な生

2
(1) 言葉を習う能力　母語
(2) 読み書き
(3) 豊かな生活

解説 筆者は、子どもが言葉をどのように習うか、また、日本で生活する人は日本語を母語とする場合が多いと述べ、日本語を習うことの意義を伝えている。

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨 基本問題②

P.36 **1**
① 集まって住む　楽しさ
② すべての人　自分らしさ

P.37 **2**
① ア

解説 文章の最初に「江戸切子（えどきりこ）は……ほろびなかった。なぜか。」とあり、筆者は、江戸切子の「大量に安く作る技術」を評価している。

② イ

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨 基本問題③

P.38 1

(1) 自然の資源　新製品
(2) イ
(3) 地球全体　地球の将来

解説 文末に注目し、筆者の意見をとらえる。

P.39 2

(1) その選手が
(2) ウ
(3) 言葉　分析　成長

解説 最初の二つの段落で、スポーツ選手が言葉でうまく自己表現できない場合について例をあげながら述べ、最後の段落で、言葉で表現することの大切さを述べている。最後の段落を中心に要旨をとらえる。

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨 標準問題

P.40 1

(1) 特に十九世
(2) ・人口　・自然
(3) ア

解説 筆者は考えるべき「難しい問題」として、「人類が地球という……いいのだろうか」と、読者にも問いかけている。

P.41 2

(1) 時代や価値観の変化
(2) 新しい事実　価値観の変化
(3) ア

解説 1段落でこんにゃくの例、2・3段落で環境問題の例について説明し、4段落の「このように」のあとで、その例を通して伝えたい考えを述べています。

(4) それにはま

解説 5段落で「どのように物事と向き合ったらいいのでしょうか。」と問いかけたあとに、次の6段落で、筆者が大切だと思うことを述べています。

一章 説明文 たしかめよう 完成問題①

P.42 ▼

(1) ウ

解説 「白い歯」が見えるのは笑顔。

(2) ① イ　② 垣根

解説 「幕が……落とされた」「垣根が……開けた」は、対になって筆者の状況をたとえている。

P.43

(3) ア
(4) 1段落 ウ　2段落 イ　3段落 エ
4段落 オ　5段落 ア
(5) 言葉こそ

解説 文章全体の内容をふまえて考える。この文章では、筆者が現地の言葉を覚えて使ったことで、心の交流が

できた喜びが中心に描かれている。つまり、言葉が人と人との心を通わせることを述べた部分が筆者の考えの中心である。

書いてみよう

例 試合前に自信をなくしたとき、友達の「マイペースでやれ！」という言葉を聞いて精一杯プレーできたことがあった。その言葉は今も私を励ましてくれる。（七十字）

一章 説明文 たしかめよう 完成問題②

P.44

(1) A イ　B ア　C オ

解説 それぞれ、接続語の前後の関係をとらえる。Aは、前の「利用できない」とあとの方の「取りこむことが可能になる」は、鉄に関する反対の立場を述べている。Bは、前の「日本各地で現実化している」ということを受けて、あとにその問題に対処している例をあげている。Cは、前の「五十年間……」にあとで条件を付け加えている。

(2) 有機物質　鉄

(3) ① 森林の腐植土から流れてくる物質

解説 ——線②が「沿岸部の植物プランクトンを育てている」ものであることに注意して十五字の言葉を探す。

P.45

② 窒素・リン・ケイ素・鉄（順不同）

(4) 植林

解説 4段落に「例えば気仙沼の漁民のように……植林を始めている所もある」と述べられている。

(5) Ⅰ 植物プランクトン　Ⅱ 森

(6) ウ

解説 1・2・3段落は、海藻や植物プランクトンを育てることについて、4・5段落は、海の生物と森との密接な関係について、6段落はまとめになっている。

(7) 自然界　微妙なバランス　壊さない

二章 小説 1 場面をとらえる 基本問題①

P.46

確認 ★
時 夜中
場所 私の部屋
登場人物 ミコ 母
できごと 夢 うなされて

1 ① 秋の夕方 ② 五月半ば 朝

P.47

2 ① (1) 海沿いの道路
(2) 例 正午
（「昼」「真昼」「昼間」などでも正解。）

解説 太陽が頭の真上にあることから「正午」と判

断できる。

2
(1) 広場
(2) 例 夕方
（「日暮れ」「夕暮れ」などでも正解。）

3
(1) 茶店
(2) 花の咲いた梅
(3) ウ

二章 小説 1 場面をとらえる 基本問題②

P.48
1
① 彼 待ちぶせ
② 車 修理

2
（いつ） 夜中
（誰が） 三吉
（何を） 名前

P.49
3
(1) ① すきとおった
② 秋
解説 ふつう、山の栗の実が落ちるのは秋である。
(2) 栗の木 やまねこ
解説 栗の木に話しかけている一郎の言葉に注目する。

4
(1) じいっととぐろを巻いて、息を殺しておる
解説 「じいっと、とぐろを巻いて、息を殺している」も同意だが、二十字になるので正解ではない。
(2) 鼻先 ひげ 深呼吸

二章 小説 1 場面をとらえる 基本問題③

P.50
1
(1) ① 赤毛の巡査 広場
② 人影ひとつ見当たらぬ
(2) ① のりの効い
② 例 犬を追いかけている。
解説 最後の一文「男は犬を追いかけ……」から男の行動をまとめる。

P.51
2
(1) （人物） マキ （動物） カモメ
(2) A 海 ひざからもも
B 海 おへそ
(3) A 向こうの島 カモメ
B 麦わら帽子
(4) はばたかせた

二章 小説 1 場面をとらえる 標準問題

P.52
1
(1) 吹雪 山の中
(2) 気を失って 岩倉のおじさん
(3) 助かった
解説 直前に「助かった、と思った。そう思うと」とある。
(4) 暗い空が
解説 「鳴り」「きしむ」などの音を伴う表現に着目する。

P.53
2
(1) 翌日も彼は同じ

(2) 肩から新聞をぶら下げた少年
一軒一軒の家　新聞

(3) 彼目がけて石を投げつけた

解説　直後の一文に書かれている。

(4) にらみつけ　にげよう

二章 小説　2 心情を読み取る　基本問題①

P.54

確認 ★ さっぱりした

1 (1) イ
(2) 慌てて

P.55

2 (1) せいせいした
(2) ・疲れた　・うれしい

3 (1) 悲しみ・恐怖（順不同）
(2) ア

解説　「この騒ぎの張本人」とは、「白いボルゾイの子犬」のこと。この犬の気持ち（「悲しみと恐怖」）が表れている様子を選ぶ。

二章 小説　2 心情を読み取る　基本問題②

P.56

1 ① ウ
② ア

2 ① ウ
② イ

解説　「対峙」は、競うようにして向かい合って立っている様子を表す。「鋭い目をした」からも、二人の間の緊張感がうかがえる。

P.57

3 ① ウ
② イ

4 (1) トロッコ　土工たち
(2) ひやりとした

二章 小説　2 心情を読み取る　基本問題③

P.58

1 ① なんだか～うような
② カモメが～くなった

2 (1) しんどい
(2) よっぽど投

P.59

3 ① イ

解説　「雲一つない」は、晴れ渡っている様子で、心にもいやな思いがなくさっぱりしている状態を表していると考えられる。

4 ② 小島は海におぼれ始める。
(1) ウ
(2) 遠く来すぎたこと

二章 小説　2 心情を読み取る　標準問題

P.60

1 (1) イ

P.61

2

(2) 早く終われ・いつまでも来るな（順不同）

解説 徒競走が「早く終われ」と思う一方、「いつまでも来るな」と、つじつまの合わない二つの願いをいだいている。

(3) むなしい期待

(4) ウ

(1) とうてい人に好かれるたちでない

(2) 不思議・不審

解説 「不審（ふしん）」とは、疑問に思うこと。

(3) 爪弾きをする

(4) 例 おせじがきらいである

（「おせじがきらいな」「おせじはきらいだと答える」などでも正解。）

解説 「それ」が指す内容を直前の文から考える。

二章 小説 ③ 人物像をつかむ 基本問題①

P.62

確認

★ 男（私）の年齢 十八

ジミー＝ウェルズの年齢 二十

ジミーの性格 気のいい男

二人の関係 仲良し

P.63

1

① 猫のような耳 ぼやぼや 灰いろ

② 声変わり 大人びて

2

（額）ウ （眉）カ

（目）ア （鼻）エ

（ロ）イ （顎）オ

3

弱虫

解説 「……のくせに」とあるので、「くりを盗（ぬす）みに来る」ことに反する内容が入る。

4

イ

二章 小説 ③ 人物像をつかむ 基本問題②

P.64

1

走るのが遅い クラス トップ 足の持ち主

2

(1) 弟子入り 五 口うるさい

(2) ア

解説 二文めに「一人前になるには、もう七、八年かかる。」とある。「半人前」とは、まだ一人できちんとした仕事ができない者のこと。

P.65

3

① (1) ウ

解説 あとの「あるとき将棋（しょうぎ）を……冷やかした。」の文から、兄のずるい性格がわかる。

(2) 十日に一ぺん

② (1) イ

(2) イ・エ（順不同）

解説 好意的な家族の様子に、ほっとしている。

二章 小説 ③ 人物像をつかむ 基本問題③

P.66

1

① 考えこむタイプ

2
(1) ❷ 気が弱い（「気の弱い」でも正解。）
解説 親譲りの無鉄砲
「無鉄砲」とは、深く考えないで無茶をすること。
(2) イ
解説 「我慢強い」は、忍耐力があること。父に弱味を見せるのが嫌なことから「負けず嫌い」とわかる。

P.67
3 イ
解説 オチュメーロフは、狂犬と決めつけて直ちに撲殺するように言っていた犬が、ジガーロフ将軍のところの犬だとわかった途端に、犬をかばい始めている。

4 ウ

二章 小説 ❸ 人物像をつかむ　標準問題

P.68
1
(1) ぐいと寄せた太い　天狗のように　たくましい
引き結んだ大きな　日に焼けて
(2) なんとも滑稽でおかしな顔
(3) ウ
解説 文吉は、ぬすっとの「恐ろしい顔」を表向きのものとして、「なんとも滑稽でおかしな顔」を隠されたものとしてとらえている。

P.69
2
(1) 背　古い印ばんてん
季節外れの麦わら帽
(2) 親しみやすい
(3) この人たちならば叱られない

---

(4) イ
解説 子供だから乗ってはいけないと言われたり、「驚かそう」としたりはしていない。

二章 小説 ❹ 表現に注意する　基本問題①

P.70
確認
★ 直喩法　馬　風
隠喩法　遊び　勉強
擬人法　風　ささやく

1 犬　気がたって　火のつくように

2 イ
解説 「黒山の」は、人間が大勢集まっている様子を表すときに使う。

P.71
3 十三湖　人に捨てられた孤独の水たまり

4 獄門台　露と消えよう
解説 ぬすっとは自分の命を「露」にたとえて、処刑されて自分の命が絶えることを「露と消えようとも」と言っている。

5
(1) 声もなく
(2) ア

二章 小説 ❹ 表現に注意する　基本問題②

P.72
1 イ

2 不公平

解説 普通の語順だと「世の中って、不公平だ。」になる。

P.73

3 毛布 うつむけ（「うつ向け」でも正解。） 倒れておいで

4 (1) イ

解説 筒のような形をして花びらの先のほうが五つに分かれているりんどうの花を、「コップ」にたとえている。

(2) ア

5 ① イ

② オ

③ エ

二章 小説 ④ 表現に注意する 標準問題

P.74

1 (1) 嵐 花火

(2) ⓐ・ⓒ（順不同）

(3) 汽車

(4) イ

解説 象のオツベルに対する怒りの激しさや、それが爆発する様子を火山にたとえて、「一度に噴火した」と表現している。隠喩法は、何かを暗示してたとえる表現技法で、ここでは、象の怒りの強さを暗示している。

P.75

2 (1) どでかい穴 なま暖かい空気

(2) ① エ

② ア

(3) ① 三太郎 ひげ

② 隠喩（「暗喩」「比喩」でも正解。）

解説 「…ような」を使わずに、「三太郎のひげ」を「うなぎ」にたとえている。

(4) 山をふた巻き

二章 小説 ⑤ 主題をとらえる 基本問題①

P.76

確認 ★ ア

1 ウ

P.77

2 ❶ 殺し合い 百年 車

解説 「殺し合い」ばかりで何も作り出さない「侍」と、「百年もの間」使われ続ける「車」を作り出せる「車大工」である自分の立場を比較し、親方は誇りを感じている。

❷ 許しておけない にらみつけて 恐ろしい顔

二章 小説 ⑤ 主題をとらえる 基本問題②

P.78

1 (1) ボブ 約束の場所 手配

(2) ① 私服刑事

② 逮捕された

(3) イ

解説 「善人」から「悪人」に変わってしまったボブをジミーは自分では逮捕できなかった。約束を果たしに

きたかつての親友を思う気持ちからである。

P.79

2

(1) 気まぐれ　好きなよう

(2) ウ

(3) イ

解説 「私」の「今度から……」「お前の好きなように……」という息子の自主性を尊重した提案を、岳は受け入れている。

(4) イ

二章 小説 5 主題をとらえる　標準問題

P.80

1

(1) イ

(2) イ

(3) 片方の目　僕　あーちゃん

解説 「片方の目が塞がれたことで……始めていたのだ。」から、「僕」ががけがをした「片方の目」に眼帯を着けて過ごすという経験を通して、片足が不自由な「あーちゃん」の思いに少し近づけた様子が想像できる。

P.81

2

(1) イ

(2) 自然　手　彼の体

(3) ア

(4) ウ

解説 「彼がハンディを……みじんもなかった」「僕の手は……差し出されて」から、「僕」と「あーちゃん」が友達として交流を深めていく様子が読み取れる。

二章 小説 たしかめよう　完成問題①

P.82

▼

(1) ウ

(2) A ウ　B イ

(3) イ

解説 普通ならば「駄菓子」をもらえればうれしいはずであるが、このときの良平は、自分が早く帰りたいと思っているのに茶店でのんきに休んでいる土工たちにいらいらしていた。それが「冷淡さ」となって出てしまったのである。

(4) 日が暮れる

(5) イ

解説 土工の「俺たちは今日は向こう泊まりだから。」という言葉を聞き、良平は、行くところまで行き着いたのちに土工といっしょに帰れると思っていた自分の思いが裏切られたことを知って、ショックを受けている。

P.83

(6) 暗く　道　たった一人　歩いて

書いてみよう

例 「泣いている場合ではない」と、一人で帰ろうと覚悟を決めている様子から、良平はかなりしっかり者で前向きな性格だと思う。（五十八字）

二章 小説 たしかめよう 完成問題②

P.84

▼

(1) A イ　B ウ　C ア

解説 A夜遅くに話しかけるときの声である。B直前の口調からわかる。

(2) イ

(3) 自分のことしか

P.85

(4) ア

解説 あとで「よけるのは母ちゃんに悪い気がした」と考えていることに着目する。自分が悪いことをしたことに怒ってくれる母の気持ちを、まっすぐ受け止めているのである。

(5) ア・イ（順不同）

解説 母親の言動に着目して人物像をとらえる。「おまえがいなくなったことがわかったら、……街の中を捜し回るかもしれんだろ、この夜中に。そんなこともわからんのか」、「自分で考えれ」とある。また、母親は、怒りながらも、腹をすかせた息子にご飯を腹いっぱい食べさせようとしている。

三章 随筆 筆者の体験や思いを読み取る 基本問題①

P.86

確認 ★

体験　宇宙飛行士

表現　糸　ガラス玉　胸

筆者の思い　もろい

P.87

1

(1) 巨大な蜃気楼

(2) 悲しい目だ

(3) 遺影

2

(1) 大阪弁　混ざり気　きれい

(2) ウ

(3) そう、褒められたのだ、あのおばさんに！

3

(1) ・この世のも　・火を吐いた（順不同）

(2) ・立つ　目

・やわらか　のほほん

三章 随筆 筆者の体験や思いを読み取る 基本問題②

P.88

1

(1) 私の目はそ

(2) 突っ立って

2

(1) イ

解説 娘の、ほうきで「空飛ぶ練習する」という言葉に対して、おじさんは、その言葉をばかにしたりせず、娘の気持ちを受け止めて、「うちのはよく飛ぶ」と言ってくれたのである。

(2) 春を迎えた花

P.89

3

(1) 留学生　蔵王温泉

(2) イ

(3) ちっぽけな宿屋

(4) 旅館　ホテル　違い

三章 随筆 筆者の体験や思いを読み取る 標準問題

P.90

1

(1) 何も何も

(2) 相手をいたわるかけ声

解説 「ちっともかまわないんですよ。」「お気になさらないで。」といったいたわりのニュアンスがある。

(3) 頼みやすい　和やかな感じ

(4) ウ

解説 「会話のクッションになるような言葉」に注目する。

P.91

2

(1) 心　表現　ためらい

(2) 地球人　宇宙　解き放して

(3) イ

解説 「中学生たちは、それまで心の中に閉じ込めていた思いを、次々につむぎ出していったのです。」のあとに示されている句が、中学生がつむぎ出した思いである。中学生たちは、自分たちの思いを、五・七・五の言葉で表したのである。

(4) 心がこもった　心

三章 随筆 たしかめよう 完成問題①

P.92

(1) しかし、人

(2) ・落書きしたような線
・空港の滑走路

(3) ウ

P.93

解説 ――線③は、「……というのだろうか。いや、そんなことはない。」という意味合いの表現。すぐあとの「最初から偉大で驚異的な賢さをもっていた」という部分から、現代と差がないと考えていることがわかる。

(4) 無常

(5) ア

(6) イ

解説 前半の部分で人間のすばらしさ、後半の部分で人間の愚かしさについて述べているが、最後の段落に「深く、無常を覚えた」とあるのに注目する。

三章 随筆 たしかめよう 完成問題②

P.94

(1) 視力以外の感覚

(2) イ・エ（順不同）

(3) ・低い姿勢
・根　上方

解説 ――線②のすぐ後の「少し詳しく書いてみると」で始まる段落と、その次の段落で、具体的に習ったことが説明されている。

P.95

(4) 一つ一つの～に染みつく

解説 ――線③の後で、筆者は、目が見えない人の知識の学習について、「晴眼者の何倍も時間がかかる」「決して能率的とは言えない」と述べた後、「でも」という接続語を使って、そのよさを説明している。

(5) 教育の積み重ね　花開く可能性

解説　最後の段落に注目して読み取る。

四章　詩　1 詩の種類・表現技法　基本問題①

P.96　確認 ★

詩の種類

(1) 口語

(2) 自由

(3) 口語自由詩

詩に用いられている表現技法　描きたい

解説　繰り返している部分が強調され、作者の訴えたいことが読み手にはっきりと伝わるという効果がある。

P.97

(1) ① 文語詩

解説　第二連の「あたゝかき」は、現代の言葉では「あたたかい」、「知らず」は「知らない」、「青し」は「青い」である。

② 定型詩

③ 五七調

解説　行の初めが五音で、続いて七音になっているものは、五七調とよばれる。

④ 文語定型詩

(2) 三

(3) 体言

解説　体言止めには、余韻を感じさせて読み手に強い印象を与える効果がある。

四章　詩　1 詩の種類・表現技法　基本問題②

P.98

1

(1) 二

解説　一行空いているところが一か所あるので、連は二つとわかる。

(2) イ

(3) ① ウ

② はなひらく　ひを
ゆめにみて

(4) イ

解説　□のまとまりを普通の言葉の順に直すと、「あした　たくさんの『こんにちは』に　であうために　どこまでも　とんでいこう」などのようになる。

P.99

2

(1) 三　九　七　いちめんのなのはな　九

(2) ア

(3) イ

解説　各連の八行目を体言（名詞）で結んでいる（＝体言止め）。また、ひばりの鳴き声を人に見立てて「ひばりのおしゃべり」と表現している（＝擬人法）。

(4) ウ

四章　詩　2 詩の鑑賞　基本問題①

P.100　確認 ★

(1) 外はもうすぐ春らしい

(2) 響いている

(3) ときめかせて
(4) イ

解説 「もうすぐわたしは割れる」「まだ見たこともない山へ胸をときめかせて」に着目すると、新しい出発を控えて、期待感を高めている様子がわかる。

P.101 ▼

(1) 五
(2) 早く　戦争
(3) ウ
(4) 街は明るくなったのだよ

解説 敵の爆撃を恐れて消されていた家や街の電灯が、戦争が終わって、つけられるようになった様子を表している。

(5) ア

四章 詩 ② 詩の鑑賞 基本問題②

P.102 1

(1) そんなときはないか
(2) 噴水の水　一枚の落葉

解説 普通は、むなしくわびしく見えるものさえ、楽しそうに見えるほど、作者の気持ちがはずんでいるのである。

P.103 2

(3) イ
(1) 秋
(2) 擬人

解説 「いってしまった／『サヨナラ』のかわりに／……

ふりまいて」「あいさつをかわしている」などは、それぞれ夏休みや木々の葉を人に見立てた表現。

(3) 三
(4) ・迷子のセミ
・麦わら帽子
・波の音
（順不同）
(5) ア

四章 詩 たしかめよう 完成問題①

P.104 ▼

(1) イ
(2) 四

解説 第二連の「もう夜。」も、一つの連に数える。

(3) ウ

解説 第一連の「正午」、最後の連の「匂い」「時間」が体言止めになっている。最後の連には、反復法も使われている。

P.105

(4) もう夜。
(5) イ
(6) ぼくはいったい何をした？

解説 第三連の初めの二行と倒置する形になっている。

(7) 陽の光　汗
(8) ア

四章 詩 たしかめよう 完成問題②

P.106

(1) 口語自由詩

(2) 奈々子

(3) 酸っぱい苦労

(4) 期待　応えよう　自分　駄目

解説 第三連の「ひとが／ほかからの……知ってしまったから。」に、お父さんが——線②のように思う理由が述べられている。

(5) 愛する　世界

解説 第六連の「自分を愛する……見失ってしまう。」の「自分」と「他人」と「世界」の関係をきちんととらえよう。

P.107

(6) ウ

解説 「酸(す)っぱい思い」や「酸っぱい苦労」がふえたお父さんとお母さんは、奈々子(ななこ)に、生きていくうえで最も大切なものは何かを伝えようとしている。

(7) ・香りのよい健康　・自分を愛する心（順不同）

書いてみよう

例 僕(ぼく)は、自分の言動にきちんと責任を持つことを大切にしたいと思っている。それが、他人を傷つけることなく自分がほかの人の役にも立てる第一歩だと思っているからである。（七十九字）

五章 古典 1 歴史的仮名遣い 基本問題①

P.108

確認 ★ ① いう　② やまぎわ　③ まいる　④ ひおけ

1
① あわす
② うちわ
③ こよい
④ まどう
⑤ なお
⑥ よわ
⑦ こわごわ
⑧ こえ
⑨ おる
⑩ いる

解説 ⑧の「ゑ」や、⑩の「ゐ」は、現代仮名遣(かなづか)いでは使われない字なので、特に注意して覚えておこう。

P.109

2
① よろず
② はじ

3
① たたかわん
② かえりなん

解説 ①の「む」、②の「なむ」に着目しよう。

4
① しょ

5
① もうで

② たのしゅう
③ しょうしん

6 ① がんじつ

五章 古典 ❶ 歴史的仮名遣い 基本問題②

P.110

1

1 ① まどえど

解説 設問文に「すべてひらがなで」とあることに気をつけよう。

② かいなし

2 ① いても
② うちわ

3 ① うろくず
② やしないける

4 ① うつくしゅう
② いたり

P.111

2

1 ① ちこう
② とびいそぐさえ
③ あわれなり

2 ① おそわるるようにて
② あいたたかわん

解説 ①は「は」を「わ」に、「やう」を「よう」に直す。
②は「ひ」を「い」に、「は」を「わ」に、「む」を「ん」に直す。それぞれ数か所ずつ直さなければならないので注意しよう。

---

3 ① こころみてん
② おもいて
③ つがいて
④ ひょうと
⑤ ようにて
⑥ したまえるぞ
⑦ なきまどう

五章 古典 ❶ 歴史的仮名遣い 標準問題

P.112

1

(1) イ

(2) ② きわめて
③ まつべえ
④ とらえ
⑤ おじい
⑥ やろう

P.113

2

(1) ① ウ やまならん
② イ おもいて
⑤ イ こたえて
⑦ ア ようなし

解説 ⑦の「やう」はア段音＋「う」なので、「よう」に直す。

(2) ③ よそおい
④ とう
⑥ いわく

解説 ④の「問ふ」は「答ふ」と対になる言葉。一組にして覚えておこう。

五章 古典 ② 重要古語と内容の理解 基本問題①

P.114

確認

★ **古語の意味** とても かわいらしい様子で

古文特有の意味 あった 光っている

解説 ここでの「けり」は「……た」、「たり」は「……ている」という意味を表している。

助詞の省略 背丈三寸ぐらいである人

P.115

1
① 月の眺めのよいころ
② 言うまでもない
③ やはり
④ 趣がある

2
(1) ① さっと ② 気の毒だ
(2) かぐや姫

解説 天人がかぐや姫に天の羽衣を「着せてさしあげる」と、それを着たかぐや姫が「お思いになっていたことも消え失せてしまった」という文脈である。

五章 古典 ② 重要古語と内容の理解 基本問題②

P.116

1
(1) イ
(2) をかし

解説 どちらも〝趣がある〟というような意味である。

(3) まして
(4) ウ

P.117

2
(1) ⓒ

解説 ⓒの「月の出づる」の現代語訳を見ると、「月が出ている」となっている。

(2) ア
(3) いらっしゃり

解説 「おはす」は「いらっしゃる」という意味で、尊敬語である。

(4) 猟師 象 普賢菩薩

五章 古典 ② 重要古語と内容の理解 標準問題

P.118

1
(1) ア

解説 現代語訳に気をつけて、「家の周辺」は「光り輝いて」（述語）の主語を作る語であることをとらえよう。

(2) ② ウ ③ イ

解説 ②の「ほど」は、物事の程度を大まかに表している。

(3) イ

P.119

2
(1) 雪 霜 真っ白

解説 現代語訳から考えよう。「そう」は、前の「雪の降った」と「霜が真っ白におりている」を指している。

(2) ウ
(3) ふさわしい
(4) ウ

五章 古典 3 故事成語と漢文の読み方 基本問題①

P.120

確認 ★ (1) 背水の陣　(2) 五十歩百歩

1
(1) 蛇足
(2) 漁夫の利
(3) 蛍雪の功
(4) 推敲

P.121

2
(1) ウ
(2) エ
(3) ア
(4) イ

確認 ★ をる　▼ をす

五章 古典 3 故事成語と漢文の読み方 基本問題②

P.122

1
(1) 売る
(2) 盾

解説 直後の商人の言葉の「吾が盾の堅きこと……」から、「之」は盾であることがわかる。

(3) めて
(4) イ

解説 現代語訳の「どんなものでも突き通せないものはない」を参考にしよう。「～ない…ない」という二重否定は肯定の意味を表す。

(5) A 矛　B 盾

P.123

2
(1) イ
(2) イ
(3) 戦争が始まる
(4) 五十　百　臆病者
(5) ウ

解説 百歩逃げた者も五十歩逃げた者も逃げ出したことに変わりはないことから、違うように見えても本質的には違わないことを意味するようになった。

五章 古典 たしかめよう 完成問題①

P.124

1
(1) ⓐ くわえて　ⓑ かるがゆえ　ⓒ こうむる
(2) ① ア　② イ

解説 水に映っている肉のほうが大きく見えたので、「これ」（自分がくわえている肉）を捨てて、「かれ」（水に映っている肉）を取ろうとしたのである。

(3) 欲の深い者たち

解説 誰が「財（＝財産）」をうらやんで、それを貪ろうとするのかを文脈から読み取る。

(4) イ

P.125

2

(1) ⓐ したまえるぞ
ⓑ こころみたてまつらん

(2) ① 決して
② だから

(3) ア

解説 「まことの仏ならば、よも矢は立ちたまはじ。」が、理由である。この部分の現代語訳を手がかりにして答えよう。

(4) ウ

五章 古典 たしかめよう 完成問題②

P.126

1

(1) ⓐ まいらす
ⓑ あわれがらせたまいて

(2) イ

解説 「命も惜しいだろうか」と疑問の形で問いかけて、「いや惜しくはない」という気持ちを表す言い方である。

(3) （誰が）中将
（誰に）帝

(4) ア

解説 翁、嫗、帝がそれぞれの立場で、愛するかぐや姫を失い、心から悲しんでいる様子が描かれている。

P.127

2

(1) 大杯に入った酒

(2) 蛇の絵　描き終えた

(3) イ

(4) 足を

(5) ⓒ

解説 ⓒのみ、きちんと蛇を描き終えて酒を飲むことのできた者。ⓐ・ⓑ・ⓓは、一番先に蛇を描き終えたのに、足をつけたしてしまったために酒を飲みそこなった者。

書いてみよう

例 私はクラスの自己紹介で、自分の趣味や家族について話したとき、つい新築した自分の家の自慢をしてしまった。あとで、あれは蛇足だったと後悔した。（六十九字）

2102R1